

くまびょう

2006

103号

NEWS

くまびょう
NEWS2006年
1月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860 0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501 (代)

FAX (096) 325-2519



謹賀新年

2006年 元旦



新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター
院長 宮崎 久義

新年あけましておめでとうございます。

旧年は各領域におきまして激動の年でありました。この間に賜りました御指導、御支援に心より感謝し、御礼を申し上げます。

新年を迎え、職員一同心を新たに、更に良質の医療を提供できるよう、初心に返り努めてまいりたいと存じます。

特に救命救急、先進医療をはじめとする診療機能の向上、機能分担と医療連携、教育・研修、臨床研究・治験、そして国際医療協力に取り組んでまいります。

新病院の第Ⅱ期工事の着工も目前でございます。諸先生方のご期待に添える医療機関でありたいと願っています。

本年も倍旧の御指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成18年 元旦

第20回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のご案内

- | | |
|----|---|
| 日時 | 平成18年2月13日(月) 19時~21時 |
| 場所 | 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター |
| 内容 | 1. 紹介症例の呈示
2. 総合討論
3. 特別講演「医療供給体制(救急医療を含む)について」 |

厚生労働省医政局指導課 医療計画推進指導官 針田 哲先生

〈連絡先〉国立病院機構熊本医療センター管理課(仲地、上園) 〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線390)



有床診療所のかかりつけ医より

田嶋外科内科医院

院長 田嶋 哲



国立病院機構熊本医療センター（以下国立）にはいつも手のかかる症例や急なお願いばかりで、感謝いたしております。「何時でもどうぞ、紹介有難うございます。」とのお言葉に甘え気軽に紹介しておりますが、その代わり逆紹介の時はできる限り「はい、承知しました。」と答えています。

全科に専門医があり、交通の利便性も良く、外科の諸先輩・大学の同期の先生方が多数いらっしゃることで国立への紹介が多くなっています。また紹介後の素早い返答・報告が有り、療養のご相談がある点も満足いたしております。

先日も乳癌の難しい症例や、自宅で急変した肝硬変・腹水の患者などお世話になりました。さて当院は熊本駅近くで父が開設した外科の有床診療所ですが、現在は私と内科医の家内も加え、ある程度の疾患には全般的に対応できるようにしております。消化器系の検査、外科的処置・手術、生活習慣病指導などから一次救急までを守備範囲としております。できる範囲で機器の充実を図り、診療レベルを保とうと頑張っています。

先日導入いたしました極細内視鏡につき少し紹介いたします。この上部消化管内視鏡は挿入部が細く経鼻挿入ができます。鎮静剤の使用なく検査可能となり、患者と会話しながら検査できますので、施行医側も検査中のストレスが随分減りました。画質は経口のタイプと遜色なく通常検査の観察は全く問題ないレベルです。

我々のような有床診療所は地域のかかりつけ医的な役目がより一層求められていますが、患者の交通整理役を行いながら得意分野の診療に関しては高レベルの診療の質を保っていくことが必要と考えつつ努力いたしております。

地域完結型の診療体制を目標とするためには、今まで以上に病診、診診連携を深めつつ医療の質を高め維持していくことが肝要と思います。微力ながらお手伝いできればと考え、貴院のアドバイサリ・コミティー委員もお受けいたしました。宜しく願います。

今後の国立病院機構熊本医療センターにはますます期待が膨らむ今日この頃です。

開放型病院運営協議会から

平成17年度第2回（通算20回）国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成17年12月15日（木）午後7時より当院の地域医療研修センター会議室にて熊本市医師会長の福田運営協議会委員長はじめ熊本市医師会の林田委員、田中委員、当院の委員4名と事務局、看護部が出席して開催されました。院長より医師会長はじめ医師会委員の先生方に日頃のお礼を述べ、続いて福田委員長より挨拶を頂きました。議事に移り、事務局より開放型病院利用状況を報告しました。開放型病院登録医数は1,090名と増加していますが、共同指導の算定数がいまいちの状態、これは数多くの登録医の先生方にご紹介頂いた患者様をご訪問頂いていますが、その中で共同指導を算定されないことがあることが一因かと考えられます。今後算定して頂けるように努力していきたいと存じます。次いで第19回開

放型病院連絡会（平成17年9月15日、くまもと県民交流館）の参加者数、「くまびょうニュース」の発行状況について報告がありました。連絡会には合計300名近い参加者があり、御出席頂きました先生方には改めてお礼申し上げます。「くまびょうニュース」は毎月1,500部を超えて発行されていることが報告されました。

次の協議事項では、第20回開放型病院連絡会の開催について協議され、平成18年2月13日（月）午後7時より当院の地域医療研修センターにて開催し、例年通り、症例呈示、開放型病院への要望を中心とした総合討論、最後に特別講演を行うことをご承認頂きました。特別講演は救急医療を含めた今後の医療体制のあり方についての講演を企画する方針となりました。なお連絡会当日の駐車場は、今年も新築工事予定地を臨時駐車場とすることに致しました。開放型病院連絡会には多数の先生方、スタッフの皆様がご参加頂きますようお願い申し上げます。

（副院長 池井 聡）

2006年
診療科紹介 (28)
麻 醉 科



江 崎 公 明

麻酔科一般、救急医療
日本麻酔科学会専門医・指導医
日本救急医学会救急科専門医



瀧 賢 一 郎

麻酔科一般、集中医療、
ペインクリニック
日本麻酔科学会専門医・指導医



田 尻 晃 彦

麻酔科一般、
ペインクリニック
日本麻酔科学会専門医



上 妻 精 二

麻酔科一般
日本麻酔科学会専門医・指導医



川 本 和 彦

麻酔科一般
日本麻酔科学会専門医

特色／診療実績

1) 手術センター・麻酔科

麻酔科は、開業の先生より患者様を安心して紹介していただくため手術室・集中治療室（ICU）の運営ハード・ソフトを改善することによって各科へ貢献してきました。一方鏡視下食道および気管支・肺手術などの特殊手術や重症患者に対しては、モニター整備と共に分離肺換気・麻薬による完全静脈麻酔・PCPSなどを駆使して生命維持と手術が行い易い環境の整備に努めてきました。

また持続硬膜外麻酔による術後疼痛緩和にも積極的に取り組んでいます。

最近のトピックスは、形成外科の開設と動脈硬化性閉塞症・心筋梗塞患者への自己骨髄移植による血管新生療法（高度先進医療）が一般的になってきたことです。また、外傷、急性冠不全、脳出血などの救急医療（緊急手術）や患者様の事情に合わせた日帰り手術にも今後とも万全を期してまいりたいと思います。

2) 麻酔科外来（ペインクリニック科）

神経ブロックを中心とし、向精神薬・麻薬・漢方薬などの内服を駆使して患者様の痛みと病む心の緩和療法を行っています。火・木曜を新患日、他を再来日として年間約600例の新患患者があります。主に麻薬を使った非癌性疼痛緩和に力を注いでいます。

表 平成16年度麻酔科外来新患状況

	平成16年
突 発 性 難 聴	34
顔 面 神 経 麻 痺	29
帯 状 疱 疹 痛	27
腰 下 肢 痛	30
頸 肩 腕 痛	7
三 叉 神 経 痛	2
非 定 型 顔 面 痛	2
癌 性 疼 痛	12
頭 痛	3
CRPS I・II	6

(次ページへ続く)

2006年 診療科紹介 (28) 麻酔科 (続き)

3) ICU (瀧室長)

術後および救命救急センター外来からの重症患者を

管理する6台のベッドがあります。

年間新患入室は、約500例です。

研 究

エイズ患者の外科手術における職務感染予防、麻酔の安全性に関する研究 (厚生労働省)

形 成 外 科 1 年 の 歩 み



形成外科医長
大島 秀男

国立病院機構熊本医療センター形成外科は、当院が国立病院から独立行政法人に移行した平成16年の10月に新しい診療科として開設されました。平成17年4月からは2人体制で外来診療、手術、救急診療にあっています。まだ外来患者様も少なく、地域社会における形成外科の認

知度は決して高いとは言えませんが、諸先生方のご指導、ご助力のお蔭をもちまして診療も軌道に乗り、今年10月で開設1年を迎えることができました。この場をかりまして厚く御礼申し上げます。

あらためて形成外科で扱う分野を紹介させていただきますと、

- 1) 先天異常、2次的変形などの異常な形態を正常な形態にする (形を造る: 形成外科)。口唇口蓋裂、小耳症、埋没耳、多指症・合指症など。
- 2) 外傷・熱傷、腫瘍切除後などの組織欠損の修復、現状回復をする (形を治す: 再建外科)。顔面外傷・骨折、熱傷、腫瘍・母斑、乳房再建など。
- 3) 正常な形態をさらに美しく修正する (形を変える: 美容外科)。腋臭症、陥没乳頭、二重瞼など。

という3分野があり、体表の形態異常、外傷全般の診療を幅広く行っています。

この1年間の診療実績は外来新患272人 (紹介率90.6%)、入院件数176人 (平均在院日数13.7日)、手術件数209件 (他科との共同手術18件を含む) でした。

形成外科としては熊本県下の総合病院では熊本大学附属病院について2番目の開設であり、外傷・熱傷な

どの急性期医療から難治性潰瘍などの慢性疾患、先天異常や他科手術の再建など各種疾患に幅広く対応することが求められております。

また形成外科外来を訪れる患者様の多くは最初から手術に期待をもっており、QOLを向上させるためより質の高い医療を提供することが形成外科の使命であることを患者様から教えられます。このような背景から手術においては先天異常、腫瘍・母斑、ケロイド瘢痕、眼瞼・眼高形成、四肢・頭頸部再建を主体に美容外科も取り入れて、「きれいに治す」ことを目指しています。また「断らない救急医療」を掲げる急性期医療を担う病院として、顔面外傷・骨折、熱傷などの救急医療にも力を入れています。

今後とも病診連携を主体とした地域医療のネットワークにおいて形成外科のneedsに対応できるよう努力していく所存ですので、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

第11回 国立病院機構熊本医療センター医学会開催のご案内

下記の日程で国立病院機構熊本医療センター医学会を開催します。多数のご参加をお待ちします。

日時：平成18年1月14日（土）・15日（日）

場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

平成18年1月14日（土曜日）

開会の辞 8:50～9:00 院長 宮崎 久義

A. 一部 9:00～11:56

セッションⅠ 9:00～9:48

座長：瀧 賢一郎、吉岡 真紀子

- 巨大卵巣腫瘍の麻酔経験
麻酔科 上妻精二、川本和彦、田尻晃彦、瀧賢一郎、江崎公明
熊本大学大学院医学薬学研究部麻酔科 谷本宏成
- 挿管困難が予想されたHand-Schuller-Christian病患者的の1例
麻酔科 緒方さつき、瀧賢一郎、田尻晃彦、川本和彦、津島愛子
- 熊本市急性期病院におけるCHDF施行数の比較と検討—臨床工学技士業務の現況をふまえて—
臨床工学技士 新木信裕、川内直、竹本勇介、田代博崇
- 蛇管回路内水貯留による人工呼吸器オートトリガーの検証
臨床工学技士 田代博崇、竹本勇介、新木信裕、川内直
麻酔科 江崎公明
- 抜管直後に肺水腫を発生した1例
麻酔科 工藤昌尚、今西彩、水溜絵津子、上妻精二、江崎公明
- 患者体験による手術室看護師の行動の変化
手術室 畠中幸、白石誠、吉岡真紀子

セッションⅡ 9:48～10:20

座長：藤本 和輝

- 心外膜限局性の炎症にて発生した結核性心外膜炎の1例
循環器科 緒方真貴子、宮尾雄治、藤本和輝、村上和憲、梶原一郎、大庭圭介、新造竜也
呼吸器科 田尻守弘、森松嘉孝
- 感染症心内膜炎により僧帽弁穿孔を生じた1症例
臨床検査科 丸尾知子、坂井綾子、河上麗子、岩本麻里、垂水綾、竹内保統、佐々木妙子
- AED（自動対外式除細動器）を使用し、救命しえたBrugada症候群の1症例
循環器科 堤孝之、梶原一郎、藤本和輝、宮尾雄治、村上和憲、大庭圭介、新造竜也
国立病院機構熊本南病院 高井英二
上野循環器内科医院 上野一弘
- 当院での肺梗塞症の発生状況の検討
心臓血管外科 岡本健、毛井順一、岡本実、高本やよい

セッションⅢ 10:20～11:24

座長：田北 智裕、菅 真知子

- 急性期脳梗塞におけるCT撮影条件の検討
放射線科 市川和幸、松延寛、丸山裕稔、廣瀬親、田畑信幸、西本博美
- シンナー吸引により急激な視力低下をきたした1例
眼科 上野重文、馬渡祐記、青木浩則
- 汎下垂体前葉機能低下症を呈し肉芽腫性下垂体炎が疑われた1症例
代謝内科 澤山浩、児玉章子、市原ゆかり、高橋毅、小堀祥三、東輝一朗
消化器科 中田成紀
- 頭部MRAにおける『半かぶり』コイル使用の基礎的検証
放射線科 有迫哲朗、丸山裕稔、堀上英昭、長岡里江子、田畑信幸、西本博美
- 覚醒剤使用後に血管炎・脳出血を生じた1例
脳神経外科 濱崎清利、大塚忠弘、佐藤恭一
- 脳血管障害患者の急性期における排便コントロール—代替補完療法を取り入れて—
救命救急センター 野田麻美、正代まゆみ、原田奈津実、森山ひろみ、菅真知子
- 神経巣症候の出現した髄膜炎症例の検討
神経外科 幸崎弥之助、田北智裕、俵 哲
- 摂食・嚥下障害患者の状態に応じた経口摂取をめざして—摂食・嚥下アセスメントシートを作成して—

東1病棟

守嶋絹、川崎彩、太田智子、筒井ひとみ、松本尚子、谷村優子

セッションIV 11:24~11:56

座長：野口 聡

19. 風疹ワクチン接種後小児特発性血小板減少性紫斑病の1例
小児科 中田絵美、池田洋一郎、森永信吾、高木一孝
ことひらクリニック 服部愛子
20. 下顎臼歯部に発生した混合型エナメル上皮腫の1例
歯科・口腔外科 寺島貴史、中山越賀、小林聡、河上恭子、兒玉美穂、片岡奈々美、
緒方誠人、蔵本和咲、兒玉罔昭
21. めまいを主訴とした特発性てんかんの1症例
耳鼻咽喉科 春野尊、小山田幸夫、野口聡、土生健二郎
岡耳鼻咽喉科 岡興佐
22. 調理部門による喫食時病棟訪問を実施して
栄養管理室調理師 倉本幸雄、上野正雄、平田光輝、松元剛、石崎豊子、倉本誠雄、
大河昭人、橋本伸明、園田健一
栄養管理室管理栄養士 尾上陽子、西久保百合子、土谷純子、浅井和子
内科部長 東輝一朗

休憩 (12:00~13:00)

特別講演 I 13:00~14:00

座長：河野 文夫

EBM研究への取り組み

国立病院機構本部医療部研究課長 伊藤澄信

休憩 (14:00~14:10)

B. 二部 14:10~17:38

セッションV 14:10~15:14

座長：橋本 信朗、松本 メグミ

23. 心臓外科におけるリハビリテーション科の関わり
リハビリテーション科 永田光二郎、牛島幸子、出口敬浩
24. 大腿骨頸部骨折後の達成目標設定
リハビリテーション科 牛島幸子、永田光二郎、出口敬浩、シームレスケア研究会一同
25. TKA連携クリティカルパスの改訂—第二報—
リハビリテーション科 出口敬浩、永田光二郎、牛島幸子
整形外科 野村一俊、橋本伸朗、福元哲也、井賢治、廣瀬隼、田中あづさ
26. 環軸椎回旋位固定の治療経験
整形外科 田中あづさ、野村一俊、橋本伸朗、福元哲也、廣瀬隼、井賢治
河野整形外科 河野邦治
熊本循環器科病院 富田泰弘
27. 股関節軸位撮影における補償フィルタの検討
放射線科 山下一也、松延寛、橋本修、長岡里江子、有迫哲朗、田畑信幸、西本博美
28. 当院における外傷性胸・腰椎圧迫骨折治療の現状
整形外科 橋本伸朗、野村一俊、福元哲也、廣瀬隼、井賢治、田中あづさ
精神科 渡邊健次郎、山下建昭、原田正公、吉田敏知、津田美佳子、大山理恵
リハビリテーション科 永田光二郎、出口敬浩、牛島幸子
東3病棟、別5病棟 看護師一同
29. 身体合併症患者の拘束に伴うADL低下の予防
別5病棟 仲原寿子、佐藤綾子、城下賢、松本メグミ
30. 快適な療養環境を提供するための取り組み—ベットのサイド環境を中心に—
副師長会 釜崎美和、平井邦子、西岡恵子、西辻美佳子

セッションVI 15:14~16:10

座長：金子 忠明、城 雪子

31. 一般市民のAED使用による除細動実施症例の検証
熊本市消防局救急課 井上雅代、後藤達広、金子忠明
32. 重症熱傷の1例
救命救急センター 吉岡明子、原田正公、瀧賢一郎、大島秀男、高橋毅
33. 国立病院機構熊本医療センターへの救急搬送の現状と検証
熊本市消防局救急課 毎床智則、堀田誠也、池田光隆
34. 壊死性筋膜炎より敗血症・多臓器不全となり救命できなかった2症例
救命救急センター 原田正公、川崎修二、澤山浩、早崎藍子、萩原利奈、兒玉章子、

吉岡明子、高橋毅、小堀祥三

35. 平成16年度の国立病院機構熊本医療センターにおける精神科救急医療
 精神科 吉田敏知、津田美佳子、山下建昭、渡邊健次郎
 県立こころの医療センター 宮内大介
 熊本大学医学部附属病院 武井宣之、橋本聡
 こころの診療科
 救命救急センター 原田正公、吉岡明子、高橋毅
36. 違法ドラッグ(亜硝酸イソブチル)服用により高メトヘモグロビン血症を呈し呼吸停止となった1症例
 救命救急センター 高橋毅、萩原利奈、早崎藍子、澤山浩、川崎修二、原田正公、児玉章子、
 吉岡明子、小堀祥三
37. プレホスピタルケアにおける薬剤投与の展望
 熊本市消防局救急課 金子忠明

セッションVII 16:10~16:58

座長：日高 道弘、吉永 薫

38. 末梢血幹細胞移植後の閉塞性細気管支炎によるII型呼吸不全末期患者に対し、呼吸不全用経腸栄養剤(プルモケア)とNPPVが有用であったMDS症例
 栄養管理室 尾上陽子、西久保百合子、土谷純子、浅井和子
 呼吸器科 森松嘉孝、猿渡功一
 血液内科 日高道弘
39. 造血幹細胞移植を受ける患者の心理過程と退院後の生活の特徴
 西1病棟 中島珠美、西岡美佳、水浦友香子、田代清美
 血液内科 清川哲志、日高道弘、長倉祥一
40. 院内感染症サーベイランス—NC調査19年間の成績と分析—
 臨床検査科 若松朋大、川崎達也、廣瀬英治
 看護部 辻里美、近藤和子、大石信子
 臨床研究部 河野文夫
41. 院内感染対策委員会資料のまとめ—報告資料の詳細分析—
 臨床検査科 川崎達也、若松朋大、廣瀬英治
42. 赤芽球癆を合併したSLEの1例
 血液内科 今西彩、上野二菜、松野直史、武本重毅、塚本敦子、長倉祥一、日高道弘、
 清川哲志、河野文夫
 腎臓内科 早崎藍子、宮中敬
43. 白血化をみた非セミノーマ性胚細胞腫瘍の1例
 血液内科 田中秀幸、上野二菜、松野直史、武本重毅、塚本敦子、長倉祥一、日高道弘、
 清川哲志、河野文夫

セッションVIII 16:58~17:38

座長：吉松 俊治

44. 放射線科における接遇の現状と今後への課題
 放射線科 今田美香、長岡里江子、有迫哲朗、豊永真紀子、田畑信幸、西本博美
45. CTおよびMR検査における収益稼働率の検討 第1報：収益および損益分岐点について
 放射線科 田畑信幸、西本博美、有迫哲朗、丸山裕稔、堀上英昭、長岡里江子、松延寛、
 市川和幸
46. 不整形照射野におけるDMU値の検討—T字照射野の場合—
 放射線科 堀上英昭、浦本雅巳、廣瀬親、橋本修、田畑信幸、西本博美
47. ケロイド、肥厚性瘢痕の手術療法および放射線療法併用による治療
 形成外科 宮村さやか、大島秀男
 放射線科 富高悦司
48. 脱酸素剤誤食によって、MRI検査時に腸管内金属アーチファクトを認めた1例
 放射線科 鈴木保子、富高悦司、荒木裕至、吉松俊治

平成18年1月15日(日曜日)

C. 三部 9:00~12:00

セッションIX 9:00~9:32

座長：岡部 正人

49. 門脈内ガス像を呈した症例の検討
 外科 佐藤幸治、辛島龍一、井田智、前田健晴、吉田直矢、甲斐幹男、大堂雅晴、栗崎貴、
 山下眞一、芳賀克夫、池井聰
50. 浸潤性胸腺腫に対し拡大胸腺摘出術及び放射線照射を施行した症例
 外科 柏木宏子、辛島龍一、井田智、前田健晴、吉田直矢、甲斐幹男、栗崎貴、山下眞一、

- 芳賀克夫、池井聰
51. 巨大乳房腫瘍の患者に発症した破傷風の1例
外科 田中響、辛島龍一、池井聰、山下眞一、栗崎貴、大堂雅晴、甲斐幹男、吉田直矢、
前田健晴、井田智
- 臨床病理 村山寿彦
52. 最近経験した急激な臨床経過を辿った平滑筋肉腫の2例
産婦人科 坂口勲、福田潤一郎、鄭俊明、永井隆司、三森寛幸

セッションX 9:32~10:12 座長：木村 圭志

53. ステロイドが奏功した蛋白漏出性胃腸症の1例
消化器科 藏元誠子、杉和洋、前田和弘、加茂章二郎、押方慎弥、中田成紀、牧曜子
臨床病理 村山寿彦
54. 肝硬変患者へのLESの試み
栄養管理室 西久保百合子、土谷純子、尾上陽子、浅井和子
看護部 下地美千代
薬剤科 八木秀明
消化器科 杉和洋
55. 当院におけるC型慢性肝炎に対するインターフェロン療法について
消化器科 中田成紀、藏元誠子、牧曜子、押方慎弥、加茂章二郎、前田和弘、杉和洋
56. 患者サービスのための経営改善—退院時精算確認方法の改善による病床の有効管理—
師長会 下地美千代、菅真知子、武居映子、荒木美佐子
57. 当院におけるH.pylori除菌の検討—最近5年間のデータ—を基に—
消化器科 押方慎弥、藏元誠子、牧曜子、中田成紀、加茂章二郎、前田和弘、杉和洋

セッションXI 10:12~10:44 座長：川原 文次

58. 上部尿路癌に対する内視鏡的診断と治療
泌尿器科 陣内良映、田上憲一郎、瀬下博志、土岐直隆、菊川浩明
平山泌尿器科 平山英雄、石松隆志
川野病院 川野四郎、坂田鼎三、後藤新吾
59. 経直腸的前立腺生検CPと薬剤管理指導チェックシート
薬剤科 島眞一郎、蔵野美紀子、富澤達
60. 接遇改善への取り組みによる行動変容を目指して—他の医療スタッフからみた看護師の接遇の実態—
副師長研究グループ 河野敬子、荒田和江、隈部孝子、細沼直子
61. 落葉状天疱瘡の1例
皮膚科 城野剛充、後藤和重、萱島研一
永田皮膚科 永田貴士

セッションXII 10:44~11:32 座長：森松 嘉孝、安浪 小夜子

62. チームティーチングによる技術演習の効果
看護学校 武居映子、安浪小夜子
63. クリティカルパスの臨床試験への導入（ドリペネム）
治験センター 久保美紀子、市下由美、林淳一郎、中川義浩、富澤達
呼吸器内科 田尻守拓、森松嘉孝
64. 胸腔鏡下肺生検を行ったシェーグレン症候群関連肺病変の2例
呼吸器内科 川崎修二、森松嘉孝、田尻守拓
外科 山下眞一
熊本大学細胞病理学 寺崎靖紘
65. 救急外来受診時の低カルシウム血症を契機に診断された偽性副甲状腺機能低下症Ib型の1例
代謝内科 市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、小堀祥三、東輝一郎
国立病院機構京都医療センター 臼井健
熊本第一病院 早坂真一
66. 腎センターにおける透析療法の現況
腎臓内科 宮中敬、富田正郎
67. 当科で経験した高Ca血症による腎障害の検討
腎臓内科 富田正郎、宮中敬
68. DPC導入にむけて
企画課医事 柳田和憲、小河邦彦、森幸一
- 前年度優秀発表者表彰 11:35~11:50 院長 宮崎 久義
- 講評・閉会の辞 11:50~12:00 副院長 池井 聰

平成17年度 院内感染対策研修会のご案内

開催日：平成18年1月25日（水）～27日（金）

開催場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

日程	時間	講義	内容	
1月25日(水)	12:00～	受付開始		
	13:00～	オリエンテーション		
	13:10～	開会式 挨拶	国立病院機構九州ブロック担当理事 (国立病院機構熊本医療センター院長)	宮崎 久義
	13:20～	国立病院機構ネットワークによる薬剤耐性菌サーベイランスについて	国立病院機構熊本医療センター	副薬剤科長 東島 彰人
	14:00～	バンコマイシン薬剤耐性菌の現状と予防について	国立感染症研究所 細菌第二部	研究員 鈴木 里和
	15:00～	インフルエンザの院内感染対策	国立病院機構仙台医療センター	臨床検査科長・ウイルスセンター長 西村 秀一
16:00～	手術部位感染対策	国立感染症研究所 感染症情報センター	主任研究官 森兼 啓太	
1月26日(木)	09:00～	院内感染サーベイランス	国立病院機構熊本医療センター	副院長・臨床研究部長 河野 文夫
	09:50～	疥癬の院内感染対策	国立病院機構熊本医療センター	皮膚科医長 萱島 研一
	10:30～	院内感染対策 一国の事業から	厚生労働省医政局指導課	主査 片岡 穣
	11:10～	抗菌薬の適正使用	川崎医科大学呼吸器科	講師 二木 芳人
	12:00～	昼食		
	13:00～	SARSの院内感染対策	国立国際医療センター	呼吸器科医長 川名 明彦
	14:00～	院内感染起因菌の分子疫学	国立国際医療センター研究所	感染・熱帯病研究部長 切替 照雄
	15:00～	多剤耐性菌の現状と問題点	長崎大学医学部附属病院 臨床検査医学	講師 平潟 洋一
	15:55～	流行性角結膜炎の院内感染対策	国立病院機構熊本医療センター	眼科医長 青木 浩則
	16:20～	結核の院内感染対策 一保健所の立場から	熊本市保健所 感染症対策課	課長補佐 佐藤龍一郎
1月27日(金)	09:00～	医療廃棄物の管理	国立病院機構熊本医療センター	医療安全管理係長 辻 里美
	09:35～	エビデンスに基づく院内感染対策	国立病院機構九州ブロック事務所	医療課長 芳賀 克夫
	10:20～	滅菌と消毒	山口大学医学部附属病院	薬剤部助教授 尾家 重治
	11:15～	医療従事者感染防止対策	国立病院機構九州医療センター	感染症対策室長・内科医師 山本 政弘
	12:10～	昼食・休憩		
	13:10～	院内感染対策、現状と問題点 (各30分)	(司会) 久留米大学医学部 第1内科 国立病院機構九州ブロック事務所 (シンポジスト) 久留米大学医学部 第1内科 国立病院機構九州医療センター 名古屋市立大学看護学部看護研究科 (コメンテーター)	助教授 本田 順一 医療課長 芳賀 克夫 助教授 本田 順一 感染管理認定看護師 音成佐代子 教授 矢野 久子 辻 里美・尾家 重治・音成佐代子・矢野 久子
	16:50	閉講式	国立病院機構熊本医療センター	副院長 池井 聡

本研修は国立病院機構本部九州ブロック事務所の主催によるものです。席に若干余裕がありますので参加希望の方は往復ハガキにて1月10日（火）までに下記宛お申込み下さい。

〈問合せ先〉国立病院機構熊本医療センター管理課（仲地、上園）
〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL096-353-6501（内線390）



麻酔科
はぎわら 利奈
萩原 利奈



こんにちは。平成17年4月より国立病院機構熊本医療センターに研修医としてお世話になっております。2年間こちらで研修予定です。早いもので、研修を始めて約8ヶ月が経とうとしています。今までに内科3科（循環器内科、腎臓内科、神経内科）を2ヶ月ずつ、救急を2ヶ月まわり、現在は麻酔科で研修中です。初めの頃は仕事や職場に慣れるのに必死で、必要以上に日々緊張していたのを覚えています。

これまで各科をまわりながら、受け持ち患者さんを通して様々な疾患や手技を経験させて頂きました。研修が進むにつれ、少ないなりに今までよりも経験が増え、その経験が次の研修で患者さんの治療に役立つといったことも多々ありました。中にはいくつか合併症を持つ患者さん、全身管理を要する患者さんもおり、

いろいろな方向から病態をとらえることの大切さや難しさなどを学びました。

また、現在、1年目研修医は平日、土日の夜は23時までの準夜、土日の昼は日勤と合わせて月に2～3回当直をしていますが、そこでは上の先生の指導のもと問診、診察、手技等色々経験させていただけるため大変勉強になります。救急外来には毎回様々な患者さんがこられます。いろいろな社会的背景を抱えた人もたくさんおり、病気だけ診るのでは済まないこともよくあります。医師になりたてのころは、病気は治っても患者さんが喜んでくれないといった事実には戸惑ったこともありました。今では患者さんが退院してからの生活や、家族との関わりについて考慮しつつ患者さんと付き合うことも医療の一環なのだと実感しています。

現在麻酔科では麻酔の専門的なことだけでなく、確実な気道確保やマスク換気、挿管、ルート確保といった救急現場で基本になる手技を実践しています。なかなかうまくいかず、先生にご指導頂きながら手技を体に覚えこませるよう日々取り組んでいます。また、麻酔中に突然の循環動態の変化を来し、対応に迫られることが多々ありますが、その原因について考え、対処法を身につけることは非常に勉強になっています。

いよいよ病院の忙しい季節となりました。今後も非力ながら少しでも皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。まだまだ未熟ものですので、色々ご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

第44回 シンポジウム「医療の将来」

－生活習慣病としての糖尿病対策－

(日本医師会生涯教育講座5単位認定)

下記により第44回シンポジウムを開催致しますので、御案内致します。

熊本県医師会長	北野 邦俊
熊本市医師会長	福田 稔
国立病院機構熊本医療センター院長	宮崎 久義

日時：平成18年1月21日（土）15：00～18：00

場所：国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
熊本市二の丸1番5号

TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

1. 臨床の現場（病院）から
2. 臨床の現場（診療所）から
3. 研究者の立場から
4. 行政の立場から

座長：熊本県医師会理事	田代 祐基
国立病院機構熊本医療センター内科部長	東 輝一朗
もりの木クリニック理事長	矢野まゆみ
熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学教授	荒木 栄一
厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室長	矢島 欽也

参加費は無料です。御来聴を歓迎します。

研修のご案内

第84回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成18年1月16日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例提示「肉芽腫性病変が疑われた汎下垂体機能低下症の1例」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター代謝内科 児玉 章子
4. ミニレクチャー「末梢血行障害に対する血管新生療法」
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501(代表) FAX 096-325-2519

第53回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定・
糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]

日時▶平成18年1月19日(木) 19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 『利尿剤投与後に非ケトン性高浸透圧性昏睡を発症した1例』
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター代謝内科 市原ゆかり、児玉章子、高橋 毅、小堀祥三
2. 『糖尿病性網膜症の最新の治療について(仮題)』
国立病院機構熊本医療センター感覚器センター眼科 馬渡祐記、上野重文、青木浩則
3. 『持続性重症低血糖をくり返す重症インスリンノーマの1例』
熊本市医師会熊本地域医療センター総合医療センター代謝内科 笹原 誉之

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター総合医療センター代謝内科 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線796

第81回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成18年1月25日(水) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：意識レベルの低下、ショック状態で紹介入院となった60歳代男性

(症例 60歳代 男性/主訴 意識レベルの低下、四肢麻痺)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 中田 成紀

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長 村山 寿彦

「4年前に交通外傷による脳挫傷、3年前に脳幹梗塞を罹患。入院2週間前より摂食障害があり近医に入院。入院前日より傾眠傾向が出現し、意識レベルの低下と四肢の弛緩性麻痺が認められて、当院へ紹介入院となった。」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、少し馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。どなたもお気軽に御参加下さい。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

第196回 初期治療講座(会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成18年1月28日(土) 15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「肺癌の診断と治療」

座長 熊本市医師会 絹脇 悦生

1. 肺癌の診断と内科的治療 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝
2. CT検査 国立病院機構熊本医療センター画像診断・治療センター放射線科医長 吉松 俊治
3. 手術治療(ビデオ供覧) 国立病院機構熊本医療センター外科医長 山下 眞一

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

平成18年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修ホール	会議室	その他
4日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C 7:50 整形外科症例検討会 C
5日(木)			17~19 循環器カンファレンス C 8:00 消化器病研究会 C
6日(金)			8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
10日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
11日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
12日(木)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会臨床化学月例会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
13日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
14日(土)	8:50~18:00 第11回 国立病院機構熊本医療センター医学会(第1日目)		
15日(日)	9:00~12:00 第11回 国立病院機構熊本医療センター医学会(第2日目)		
16日(月)	19:00~20:30 第84回 月例会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
17日(火)	18:00~19:00 第28回くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
18日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
19日(木)	19:00~20:45 第53回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定・ 糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
20日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
21日(土)	15:00~18:00 第44回 シンポジウム [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本県医師会理事 田代 祐基 「医療の将来 -生活習慣病としての糖尿病対策-」 1. 臨床の現場(病院)から 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 2. 臨床の現場(診療所)から もりの木クリニック理事長 矢野まゆみ 3. 研究者の立場から 熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学教授 荒木 栄一 4. 行政の立場から 厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室長 矢島 欽也		
23日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
25日(水)	12:00~17:00 平成17年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第1日目) 19:00~20:30 第81回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「意識レベルの低下、ショック状態で 紹介入院となった60歳代男性」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
26日(木)	8:30~17:00 平成17年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第2日目) 18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
27日(金)	8:30~17:00 平成17年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第3日目)		8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
28日(土)	15:00~18:00 第198回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本市医師会 絹脇 悦生 「肺癌の診断と治療」 1. 肺癌の診断と内科的治療 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝 2. CT検査 国立病院機構熊本医療センター画像診断・治療センター放射線科医長 吉松 俊治 3. 手術治療(ビデオ供覧) 国立病院機構熊本医療センター外科医長 山下 真一		
		15:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会	
30日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
31日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)